

「ぶんぶんひろば」における授業の実践
「幼児英語指導法」
(保育学科)

今の社会には英語が必要と言われる。これからの社会では今よりもっと、英語が必要とされるのではないだろうか。保育学科、「幼児英語指導法」の授業を受けている2年生は、未来を担う子ども達に、英語に触れる体験を与える方法を学んでいる。そのために保育現場で実際に使える簡単な英単語やフレーズはもちろん、本場英語圏の保育現場と同じ遊びなどを学習している。英語を教えるための遊びではなく、外国の本物の遊び、歌、絵本とたくさん出会っているということになる。

その授業内容は「英会話遊び」「衣服の着脱：サイコロゲーム」「子どもの歌」「手遊び・ふれあい遊び」「絵本」「外遊び・集団遊び」などである。さらに指導方法を習得する課題として「造形遊びを指導するための英語フレーズ習得」を設定している。

授業の一環として、教室で学んだことを、子どもを前に実際に指導する機会を作っている。ぶんぶんひろばで、主に英語で生活している子ども達と遊ぶ体験をするのである。0～3歳児を対象に手遊びのOpen, Shut Themや触れ合い遊びのRound and Round the Garden、英語の歌と絵本を読み、自信をもって指導に当たれるように練習を繰り返した。

簡単な制作も指導し、出来上がった星のステッキで、きらきら星♪のTwinkle Twinkle Little StarとBibbidi-bobbidi-boo♪を歌った。レッスンで習っているピアノ演奏も活かして、伴奏をつけて歌い、子どもたちの活発な活動を生み出した。



写真1 星のステッキ制作風景①



写真2 星のステッキ制作風景②

最後に、子どもたちの伝統的な遊び歌Ring o' Rosiesを学び、歌詞の意味の深さに学生たちは驚いた様子であった。学生が子どもたちから歌を習う場面もあった。互いのアンコールに快く答え、楽しく一緒に遊び、充実した学習機会となった。



写真3 伝統的な遊び歌を学ぶ

(文責：保育学科 リー・リッジウェル)